

317号
2023年
5月

日赤みやぎ



▲ラオス人民民主共和国で救急法を指導する当支部の職員。世界に広がるネットワークを活かし、国内外で「人間のいのちと健康を守る」活動をしています。

5月は赤十字運動月間です
あなたの気持ちをカタチに

5月は赤十字運動月間 ご協力をお待ちしております!

災害発生!

いち早く被災地へ救援物資を届けます。
医療救護班による避難所の巡回診療や、ボランティア等による炊き出し、こころのケアも行います。



赤十字は、動いてる!

+ SAVE365

赤十字は、災害が起きた時に駆けつけられるだけではありません。365日、それぞれの専門がそれぞれの場所で働き続けています。災害に備えた訓練、被災者支援の準備、無償の医療、災害現場や海外での活動などなど。すべてが人を救うことにつながっています。この5月、赤十字の活動が、あなたの身近に届きます。

TEAM SAVE365 一緒に、救える。

日本赤十字社

人道に特別な日はありません

災害救護訓練の実施。
救援物資の備蓄。
ボランティアの育成。
救急法の普及。
海外での人道危機対応や災害対応など365日常に活動しています。

150年受け継がれてきた思いと使命



赤十字は、スイス人のアンリー・デュナンが戦争で傷ついた人々を敵味方の差別なく救いたいという思いから創設した、世界初の救護団体です。現在では、世界192か国で人間のいのちと健康、尊厳を守る活動の輪が広がっています。

赤十字は、いのちを守る世界共通のマークです。紛争の現場では、このマークを付けた場所や人を絶対に攻撃してはならないという意味があります。



赤十字マーク

いのちを守る宮城県支部の活動



毛布などの救援物資を備蓄し、被災地に届けています。



講習会やイベントでけがの手当や救命手当の方法を伝えています。

世界中の“今”必要なニーズに動く!

トルコ・シリア地震



被災者へ食事を提供するトルコ赤新月社(C)トルコ赤新月社

ウクライナ人道危機



ウクライナから避難してきた人に保健医療支援を実施提供するハンガリー赤十字社ボランティア(C)Tamara Vukov

日本赤十字社は国際赤十字と連携して、現地での活動をはじめ、誰も取り残さないため様々な支援活動に取り組んでいます。

引き続き、みなさまのご協力をお願いいたします。



日赤の職員も現地で活動。動画はこちら。



「気づき・考え・実行する」を合言葉に、世界の平和と人類の福祉に貢献できる子どもたちを育てます。



高齢者見守り訪問活動など地域でボランティアが活動しています。

動き続ける活動は皆さまに支えられています

あなたのご支援がカタチに(一例)

2,000円のご寄付で



感染症防護具2人分

感染症まん延防止下で救護活動を実施する際に必要な防護具(マスク、フェイスシールド等)を備えることができます。

3,000円のご寄付で



安眠セット1人分

避難所での生活を少しでも快適に過ごしていただくため、キャンピングマット、枕、アイマスクなどが一式収納された「安眠セット」を備えることができます。

5,000円のご寄付で



緊急セットを1セット4人分

避難所での生活にあつと便利なマスク、ウエットティッシュ、ラジカ、懐中電灯、食パンなどが一式収納された「緊急セット」を備えることができます。

ご協力方法

お住まいの地域から

赤十字ボランティアや町内会・自治会などの方々のご協力により、皆様のご家庭を訪問し活動資金へのご協力をお願いしております。

日赤窓口から

当支部やお住いの市町村の日赤窓口で受け付けております。

銀行・郵便局から

専用の振込用紙をご用意しておりますので当支部までご連絡ください。(ご連絡先)022-271-2252

口座自動引き落とし

銀行や郵便局の口座から自動的に引落しができます。毎月払い(年1回払い)もお願いいたします。

クレジットカード

ホームページからお申込みいただき、クレジットカード決済でお願いいたします。

その他

・遠隔や視覚障害によるご寄付
・赤十字定額型自動販売機の設置
・スマホアプリ(Jcom)から



防災・減災について楽しく学ぶイベントに参加しました!

3月12日(日)、女子プロサッカーマイナビ仙台レディース主催の「WE ACTION DAY」に参加しました。このイベントは、東日本大震災から12年が経ち、当時を知らない子どもたちが増えていく中で、これからを担う子どもたちが、楽しく学ぶきっかけになればと、選手が主体となって学園祭をイメージして実施されました。当支部は「防災」ブースを担当し、段ボールベッドの組み立てや防災リュックの中身を考えるゲーム、家庭内DIG(災害図上訓練)、防災〇×クイズ、担架による搬送のデモ等を行いました。防災ボランティア4名も参加し、選手のサポートを行いました。参加した親子からは「楽しみながら防災について学ぶことができた」「防災について再確認するいい機会になった」といった声が聞かれました。



↑防災リュックのゲームにチャレンジ!



↑大盛り上がりの防災〇×クイズ

当支部職員がラオス人民民主共和国で救急法普及を支援!

日本赤十字社は、国内だけではなく、海外への救急法の普及支援も行っています。今回、令和元年度に支援*1を開始してから、初となるラオス赤十字社への現地訪問を行いました。

ラオスは人口1,000人当たりの医師数が0.272人*2と医療水準が低いため、住民自身で応急手当ができることが非常に重要で、手当を伝える指導者の育成が求められ、その指導者養成講習の指導支援に当支部職員も参加しました。

ラオス赤十字社本社及び国内6支部から集まった新任指導者は、知識・技術の習得と指導力の向上のために真剣に取り組み、今後、地元の学校を中心に救急法を広めていきます。

*1 日赤が支援した資金は、資材(人形等)の購入や指導者養成、救急法講習等の開催に役立てられています。令和4年度は宮城県支部から558,000円の支援を行いました。

*2 2015年時点の数値 世界平均は1.804人



現地職員と実技に取り組む相原指導員

赤十字ボランティアフェスティバル

日赤東京都支部主催の「赤十字ボランティアフェスティバル」に当支部から金子俊光氏(指導講師/仙台市荒巻赤十字奉仕団長)がオンライン出演しました。

東日本大震災から12年となる令和5年3月11日(土)、日赤東京都支部が「なかのZERO(東京都中野区)」を会場に「赤十字ボランティアフェスティバル」を開催。金子氏がオンライン出演し、震災当時の状況や経験して得たことについて発表しました。

当日は、都内の赤十字ボランティア約450人が参加。東日本大震災についてあらためて考える機会になりました。



宮城県支部の会議室から出演した金子氏



会場に映し出された様子(なかのZERO)



仙台赤十字病院 当院のホームページがリニューアルしました!



令和5年度より、当院の新ホームページを公開いたしました!患者さんや入職を希望している方にとって、今まで以上に見やすく、分かりやすい、温かみのあるページにできるように広報委員会を中心として1年間話し合いを重ねてきました。

感染症等の影響で中止していた市民セミナーも年度内には再開できるように活動していきますので、ホームページにも、市民セミナーにも、より多くの方に訪れていただければ嬉しいです!

こちらを読み取っていただくと、
当院のホームページが
ご覧になれますので、
ぜひお試しください!!



石巻赤十字病院 全国の医療系学生が災害医療を学ぶ

3月18日~20日の3日間、全国の医療系学生が災害医療について学ぶ3rd DisasterWSが当院と石巻市の震災遺構門脇小学校を会場に開催されました。このワークショップは、「災害医療をもっと学びたい、もっと多くの学生に知ってもらいたい」という強い思いを持つ学生が主体となり企画したものです。

1・2日目は、当院を会場に災害医療活動を行うための基本原則や治療の優先度を定めるトリアージ、避難所運営について座学やグループディスカッションで学びました。3日目には震災遺構門脇小学校を見学した後、遺構スペースの一部を使用して避難所設営を体験し、段ボールベッドを設置する際のゾーニングや段ボールベッドの組み立て方法など、避難所環境整備の重要性を体感しました。



協力しながら段ボールベッドを組み立てる学生達

宮城県赤十字血液センター 赤血球製剤の有効期間を28日間に延長



このたび、日本赤十字社では、長期保存試験(2~6℃、採血後28日間)を実施した結果、試験期間内は品質が維持されていることが確認されたため、赤血球製剤の有効期間を従来の21日間から1週間延長し、28日間に変更することとしました。

赤血球製剤の有効期間変更に係る延長の承認を国から取得し、本年3月13日採血分から製造を開始し、3月15日から順次、供給を開始しております。



お知らせ



2023年トルコ・シリア地震救援金を 受け付けています

2月6日(月)現地時間午前4時17分、トルコ南東部のシリアとの国境付近を震源とする地震により、トルコ南東部及びシリア北西部において多数の死傷者が報告されています。こうした事態に対し、日赤では救援金を受け付けております。

最新情報はこちらをご確認ください▶



宮城県支部の社屋移転について

宮城県支部では、現在、仙台市泉区市名坂に新社屋及びロジスティクスセンターの建築を進めており、令和5年7月に竣工、10月に移転を予定しています。

この社屋は、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模・広域災害において、全国から参集する救護班要員の一時休憩施設、資器材の補充、情報収集・処理の機能を持つロジスティクスセンターを兼ねており、

- ①いかなる災害でも災害救護活動拠点として実稼動できる施設
- ②関係機関との連携モデルとなる施設
- ③平時から開かれた施設

となるよう計画された施設となっています。



お役立ち情報

非常食かんたんレシピ



* アネちゃんの * かんたんごはん帳

Vol.27

魚肉ソーセージのアメリカンドッグ風

アネ(牧野純子)
イラストレーター・FCAJ認定フードコーディネーター
仙台市在住
赤十字救急法救急員 赤十字防災ボランティア
出版社、CM制作会社を経てフリーランスに。著書に「アネちゃんのごはんいっぱい幸せ」(主婦と生活社)、「夜にちよこっとココットごはん」(朝日新聞出版)がある。

* 材料 (2人分・6個分程度)

A(揚げるドッグ生地・焼くドッグ生地共通)

- ホットケーキミックス…100g
- 牛乳(or水)…75~80ml マヨネーズ…小さじ1

B(ツナ&マヨネーズ風)

- 魚肉ソーセージ…2本(各1本)

* 作り方

1. ボウルにAを入れ、よく混ぜる。
2. 魚肉ソーセージを手で6等分にちぎる。

★揚げるドッグ

3. 1の生地のボウルに2を入れ、スプーン2本で魚肉ソーセージを包むように生地を丸く整え揚げ油(分量外・160℃)に落とし、返しながらかきつね色になるまで5~6分ほど揚げる。

★焼くドッグ

3. フライパンに多めのサラダ油(分量外)を入れ、中火にかけ、1の生地の1/6を流し入れ、魚肉ソーセージを乗せ、弱火で1分ほど加熱して、包むように返し、転がしながら5~6分焼く。



- 常温保存できる魚肉ソーセージとホットケーキミックスは保存食にぴったり。そのままでも美味しいですが一緒にするとなお美味。
- 賞味期限(魚肉ソーセージは3ヶ月程度・ホットケーキミックスは1年程度)が近づいたら、アメリカンドッグ風にしてみてくださいな。
- また、いざという時に、揚げ物は難しいので、フライパンで作る焼くドッグがオススメです。
- 生地は作りやすい分量で大丈夫。ホットケーキミックス10に対して7~8割程の水分を加えるのが目安です。マヨネーズを入れるとふんわりできあがりますが、なければ入れなくても作れます。災害時には、生地をポリ袋で作り、端を切って、くっつかないタイプのアルミホイルを敷いたフライパンに絞り出して作ると、洗い物が出なくてすみます。



日本赤十字社 宮城県支部
Japanese Red Cross Society

〒981-0914 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町 4-17 (宮城県仙台合同庁舎 8階)
TEL 022-271-2252 FAX 022-275-3004
MAIL info@miyagi.jrc.or.jp
ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/miyagi/>

